

注意点1



アップ・ピッキングはエグる感で行なうこと!

ブリッジ・ミュートをしながら、パワー・コードをオルタネイトで弾くのは意外に大変だ。慣れていないとアップ・ピッキングで詰まってしまうことがある。これを避けるためには、P.33で紹介したように弦にピックを埋め込む感じで弾くと良いだろう。この時に“2本の弦を弾く”というより、“2本を1本の太い弦として弾く”イメージでピッキングすると良い(図1-a)。ただし、アップ時には少し注意が必要だ。ダウン後のピックは弦に埋まっているが、このまま普通にアップすると1本弦のみがはじかれ、2本目の弦にピックが当たらない(図1-b)。そこでダウン後は、埋め込まれたピックを利用し、エグる感じでアップする(図1-c & 写真①&②)。少しピックを持つ力を緩めて、ピックをしならせるように弾けば良いだろう。

図1-a 2本弦のダウン・ピッキング



2本を1本の太い弦としてダウン・ピッキングする。

図1-b ダメなアップ・ピッキング



直線的にアップすると上の弦に当たらない。

図1-c 良いアップ・ピッキング



少しえぐる感じでアップ・ピッキングを行なう。



アップ・ピッキングは、エグるような感覚で行なうと良い。



アップ直後も、しっかりとブリッジ・ミュートを行なうこと。

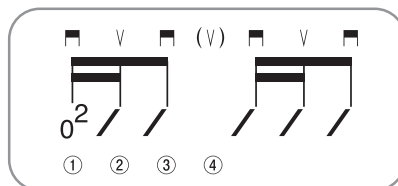
注意点2



アップの空振りは放物線のような軌道で!

このフレーズには、2本弦の空振りが登場するので、アップによる2本弦の空振りを覚えなくてはならない。図2は1小節目1拍目のピックの軌道を表している。最後の部分が空振りとなっているが、2本の弦をまたぐため、その軌道は他のピッキングのような直線ではなく、放物線のようにになっている点に注目してほしい。この一連の動作は、“直線ダウン・ピッキング→エグるアップ・ピッキング→直線ダウン・ピッキング→放物線アップ空振り”として、右手に覚え込ませよう。このフレーズの残りの部分は、この“ダウン&アップ”と“ダウン&空振り”の組み合わせが変わっているだけなので、右手の振り自体で悩むことは少ないはずだ。左手が激しく移動する箇所ので、リズムがズレないように注意しよう。

図2 2本弦のアップ・ピッキングの空振り



①ダウン

②アップ

③ダウン

④空振り



2拍目のアタマが、アップ・ピッキングから始まらないように。④でアップの空振りを入れる。

～コラム9～

地獄の戯れ言

ギタリストは、さまざまな筋肉を駆使してギターを演奏している。特にヘヴィメタル系ギタリストは、激しいステージングを行なうので、驚異的な筋力が必要だ。身体を鍛えていない人には、ザック・ワイルドのように重いレス・ポールを極太の鎖のストラップで肩から提げて大腿開きで弾くことや、スリッノットのように“腰曲げ90度体勢”で弾き続けることはできないだろう。だからと言って、むやみやたらに筋肉を鍛えてもいけない。“おまえたちはダウン・ピッキングが弱いから、腕立て伏せ100回だ!”という昭和スガ魂アニメのような鍛え方は間違っている(写真③)。筆者の行きつけの“鍼治療”の先生から“ギタリストは、

超絶ギタリストを目指すなら、メタル筋を育てよ!

一般の人の身体とはまったく異なる筋肉のつき方をしている”と聞いたことがある。つまり“ダウン・ピッキングを弾くために必要な筋肉は、ダウン・ピッキングを弾くことで養われる”のだ。そのため超絶ギタリストを目指す者は、速弾き以外にはほとんど使われないことがない高速ピッキング&フィンガリング力=“メタル筋”を鍛え上げることが大切だと言える。ただ、前述の“鍼治療”の先生から“適度な筋力トレーニングは、メタル筋の周りも鍛えられるので、メタル筋を助ける効果もある”そうだ。自宅にこもって速弾き練習ばかりをするのではなく、適度な運動を試してみるのもオススメだ。



このようなスバルタ的筋力トレーニングを行なったところで、“メタル筋”が鍛えられるわけではない!